

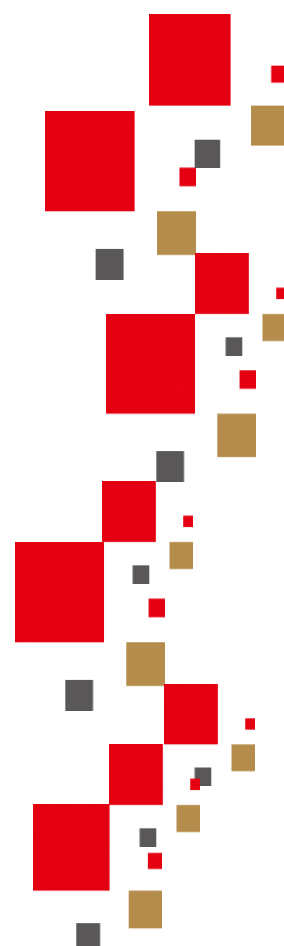
株式会社金城滋商事

ポジティブインパクトファイナンス
モニタリング実施報告書（2025年度）

2026年2月9日

株式会社愛媛銀行
企画広報部 ひめぎん情報センター

 愛媛銀行





1. モニタリング対象

企業名	株式会社金城滋商事
融資実行日	2025年2月28日
モニタリング直近実施日	2025年9月12日

2. モニタリング結果

本モニタリングにおいて、株式会社金城滋商事は事業活動を通じて、資源循環や脱炭素、従業員の健康・働きやすさに関する取組みを継続していることが確認されました。一方で、一部の KPI については、外部環境の変化や取組開始時期の影響等により、現時点では進捗が限定的な項目も見られました。当行としては、引き続き対話を重ねながら、事業環境や実行可能性を踏まえた継続的なモニタリングと支援を行ってまいります。

3. KPI 実績と取組状況

① クリーンなまちづくりへの貢献

KPI	目標	実績
サーマルリサイクル燃料 ¹ の取扱量	2029年9月期に20,000t	16,766t (2024年9月期) 18,324t (2025年9月期)
再生原料 ² の取扱量	2029年9月期に9,000t	7,544t (2024年9月期) 7,013t (2025年9月期)

【取組みの進捗状況】

- サーマルリサイクル燃料の取扱量は、2025年9月期に18,324tと前期比で増加しました。セメントメーカー向けの燃料供給が拡大しています。
- 再生原料の取扱量は、7,013tと前期比で減少しました。デジタル化やペーパーレス化の進展により、紙の生産量および古紙発生量が構造的に減少していることが主な原因です。
- こうした外部環境の変化を踏まえ、同社では、RPF やフラフ燃料の供給強化を通じて、収益性と資源循環の両立を図る方針を示しています。

【当行所見・今後のフォロー】

- 同社がサーマルリサイクルや再生原料の取扱いを通じて資源循環に取り組んでいる点は、持続可能な社会の

¹ サーマルリサイクル燃料：RPF、CPF等フラフ燃料、木質燃料、プラスチック、タイヤチップ

² 再生原料：古紙、金属（鉄、金・銀・銅・パラジウム・プラチナ等非鉄金属）、アルミ缶、スチール缶、ビン、ペットボトル、プラスチック



実現に向けて意義深いものと考えます。再生原料の取扱量については、市場構造の変化により一定の制約はあるものの、引き続き循環型社会への貢献が期待されます。当行は、事業の持続可能性と環境面での取組みの両立に向け、引き続き対話や情報提供を通じて支援してまいります。

② エンゲージメントの向上

KPI	目標	実績
資産形成セミナーの開催	毎年 1 回以上	0 回 (2024 年 9 月期) 0 回 (2025 年 9 月期)
人間ドック受診率 (※40 歳以上)	毎年 100%	0% (2024 年 9 月期) 10.5% (2025 年 9 月期)
ストレスチェックの実施	毎年実施	未実施 (2024 年 9 月期) 未実施 (2025 年 9 月期)

【取組みの進捗状況】

- ・従業員向けの資産形成セミナーについては、2025 年 9 月期末実施となりましたが、今後の実施に向けた準備が進められています。
- ・人間ドック受診率については、2025 年 9 月期に 10.5%となりました。対象となる 40 歳以上の従業員 38 名のうち、希望者 4 名が受診しています。
- ・ストレスチェックについては、2025 年 9 月期は未実施となりました。導入に向けた検討を進めていましたが、外部医療機関との調整に時間を要したことから、今後導入予定とされています。

【当行所見・今後のフォロー】

- ・従業員の健康管理や働きやすい職場環境の整備に向けた取組みについて、今後の実施に向けた準備や検討が進められている点に着目しています。人間ドックやストレスチェックについては、制度の定着や社内理解の促進が重要であり、今後の取組みの進展が期待されます。当行としても、従業員のエンゲージメント向上に向けた取組みが継続的に進むよう、対話や情報提供を通じて支援してまいります。

③ 事業活動を通じた脱炭素社会への貢献

KPI	目標	実績
運搬車両の次世代自動車 ³ への転換	2029 年 9 月期に 15%	0% (2024 年 9 月期) 0% (2025 年 9 月期)
営業用車両の次世代自動車への転換	2029 年 9 月期に 60%	38% (2024 年 9 月期) 42.9% (2025 年 9 月期)

³ 次世代自動車：EV、FCV、HV



重機の次世代重機 ⁴ への転換	2029年9月期に50%	26% (2024年9月期) 38.1% (2025年9月期)
----------------------------	--------------	------------------------------------

【取組みの進捗状況】

- ・ 運搬車両については、2025年9月期は新規導入がなかったことから、実績は0%と前期から変更ありませんでした。今後、新規導入時には次世代自動車へ順次切り替える方針が示されています。
- ・ 営業用車両については、既存車両の入れ替えおよび増車に際し、ハイブリッド車を導入したことで、転換率は42.9%と前期から上昇しました。
- ・ 重機については、既存重機の更新および新機導入にあたりEV重機を採用した結果、次世代機への転換率は38.1%となり、前期から改善しています。

【当行所見・今後のフォロー】

- ・ 車両や重機の更新に合わせて次世代型への転換を進めており、事業活動を通じた脱炭素化に向けた取組みが段階的に進められているものと受け止めています。一部のKPIについては新規導入時期の影響により進捗が限定的となっておりますが、更新機会を捉えた計画的な転換が進められている点は、今後の進展が期待されます。当行としても、設備更新計画や技術動向を踏まえた対話を通じて、実行可能性に配慮した脱炭素の取組みを引き続き支援してまいります。

⁴ 次世代重機：EV、FCV、HV

